

**[成果情報名]野生獣の冬期の餌資源である青草の抑制技術**

**[要約]**野生獣の冬期の餌資源と考えられる果樹園内の青草は最終の除草作業を10月下旬以降に行えば、冬期の青草量は少なくなり、野生獣類の餌場や潜み場所としての利用価値は大きく低下する。

**[キーワード]**イノシシ、シカ、除草時期、雑草、潜み場所

**[担当]**島根農技セ・病虫グループ、島根中山間セ・鳥獣対策グループ

**[代表連絡先]**電話 0853-22-6772

**[区分]**近畿中国四国農業・生産環境（鳥獣害）

**[分類]**技術・普及

---

**[背景・ねらい]**

果樹園は野生鳥獣類の被害を受けるとともに、雑草の管理方法によってはこれら野生獣類の潜み場所や冬期の餌場となっている。そこで、カキ園を対象に、野生獣の冬期の餌資源と考えられる圃場内の青草を抑制する方法として、夏から秋期にかけての最適な雑草管理手法を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. カキ園での除草回数は年間0～7回である。最終除草時期が8、9月の圃場での冬期の青草量は10月以降に除草した圃場の2倍以上の153.3g/m<sup>2</sup>である（表1）。
2. 実験的に除草回数、除草時期（草刈り機使用）を変えた3カ年の試験結果（島根県出雲市および島根県邑智郡美郷町のカキ園）から、冬期（1～2月）の青草量は除草回数よりも最終除草時期の影響を受け、10月下旬以降に最終除草を行えば夏期（8、9月）の場合に比べ、少なくなる（図1、2、美郷町のデータは省略）。
3. カキ園の冬期の青草は圃場に関わらず、ほぼイネ科植物が優占する。これに次ぐ青草は出雲市では、ナデシコ科植物（2007年）とキク科植物（2008年、2009年）である。美郷町ではイネ科植物に代わりマメ科植物（2007年）が優占する年もある（図3）。これらの圃場では3カ年とも上位2～5科の植物で全体の8割ほどを占める。これらの植物はいずれもイノシシやシカの餌となりうる。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 除草を行わない場合、冬期の青草量は減少するが、草丈の高い枯れ草等が繁茂するため獣類の潜み場所として利用される。
2. この試験は、西日本の島根県の標高20m（出雲市）と42m（美郷町）での成果である。冬期の青草発生量は標高や気候に左右されるため、獣類の餌資源量を抑えるための最終除草時期は地域によって多少異なる。目安として、出雲市の10月下旬の平均気温（15.9℃：2007～2009年のアメダスデータによる）から考えると、これより高ければ最終除草時期は遅くなり、低ければ早まる。
3. この成果は果樹園や農地だけでなく、道路の法面や河川敷の雑草管理にも活用できる。

[具体的データ]

表1 農家のカキ圃場における雑草管理と冬期(1~2月)の  
青草量(1m<sup>2</sup>当り)

最終 除草時期	調査 圃場数	年間 除草回数	青草の乾燥重量 (g,平均±S.E.M.)
8.9月	10	1~6	153.3±19.2
10-12月	7	2~7	64.7±10.6
無除草	2	0	57.5±10.6

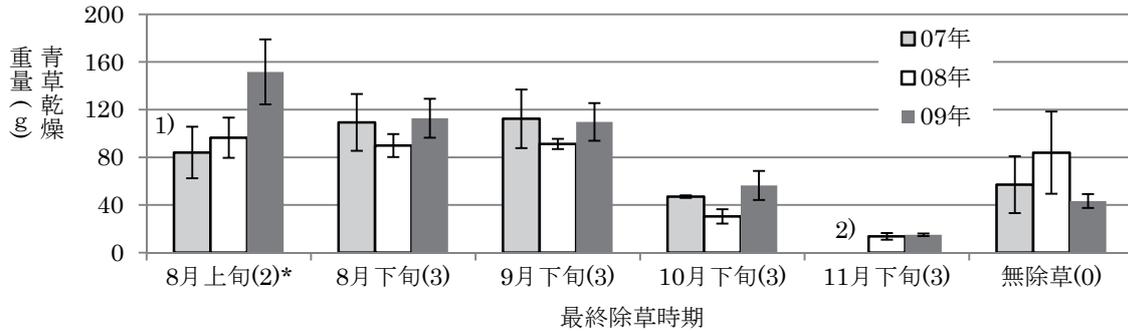


図1 カキ園において複数回除草を行った場合の最終除草時期別の冬期(1~2月)の  
青草乾燥重量(1m<sup>2</sup>当り、調査場所：島根県出雲市)

1)平均±S.E.M. 2)2007年11月下旬の除草は未実施。\*( )内の数字は除草回数を示す。

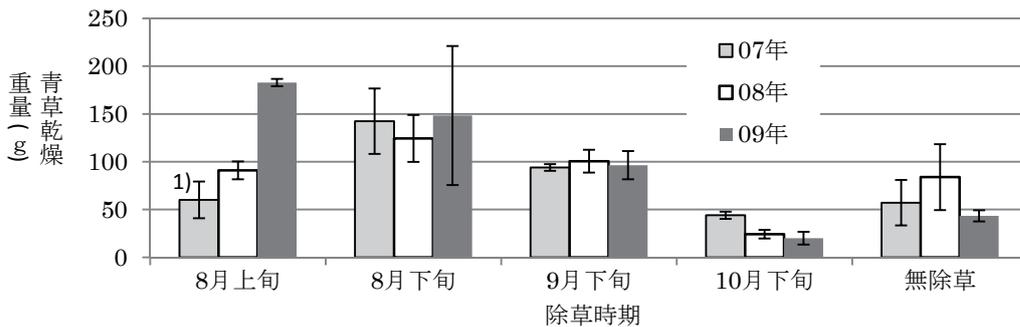


図2 カキ園において1回除草を行った場合の除草時期別の冬期(1~2月)の  
青草乾燥重量(1m<sup>2</sup>当り、調査場所：島根県出雲市) 1)平均±S.E.M.

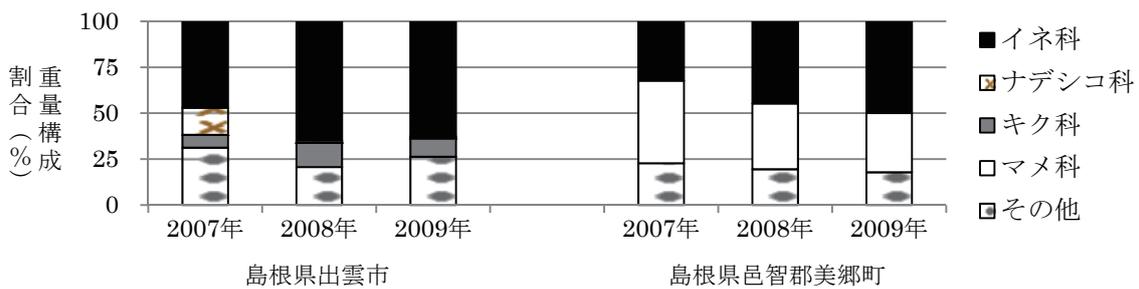


図3 カキ園において冬期(1~2月)に刈り取った青草の乾燥重量構成割合

出雲市のその他にはゴマノハグサ科、タデ科、シソ科、マメ科等を含む。美郷町のその他はイネ科とマメ科以外の植物である。

(奈良井 祐隆、竹下 幸広)

[その他]

研究課題名：鳥獣被害を防ぎやすい果樹のコンパクト栽培技術および廃園等における省力的追払い手法の開発

予算区分：実用技術

研究期間：2007~2009年度

研究担当者：奈良井 祐隆、竹下 幸広、山川 渉、金森 弘樹、小塚 雅弘